

人 49 町で一軒の銭湯を守る

二月の初めに、編集室へこんなハガキが舞い込んだ。鳥原新地の酢山省三さんからである。

「是非広報でとりあげていただきたい事がありましてペンをとりました。それは、町に一軒しかない銭湯、

花の湯さんです。我が家は（大人二、子供四）月一回のレヨ

ン風呂の日（第三日曜日）、夕食を早くす

ませ、みんなで花の湯に行きます。この

日は子供は無料ですし、広いお風呂で体

も暖まり、気持ちよく入浴できます。…」

そこで大野新田町にある「花の湯」へ早速うかがった。

現在のご主人は白井弘さんで、「花の湯」の三代目である。「花の湯」が営業を始めたのは明治三十年代、日露戦争の前だという。店の名前の由来はわからないが、「花の湯」の「の」は乃木大将の

乃が正しいそうである。大野には銭湯は昔から三軒あったそうだが、今は一軒しかない。「今では大野だけでなく曾野木からも白根からも来る。たまに大

きい風呂に入ってみたい、と車で来る人もいる」

酢山さんからのハガキにもあるとおり、毎月第三日曜日は県内一斉にレモン風呂の日である。親子

同伴だと小学生以下は無料だ。酢山さん一家だけでなく、このことを知っている人には人気がある。

「今は家庭の風呂の普及率がほぼ97%だから、銭湯なんてもうか

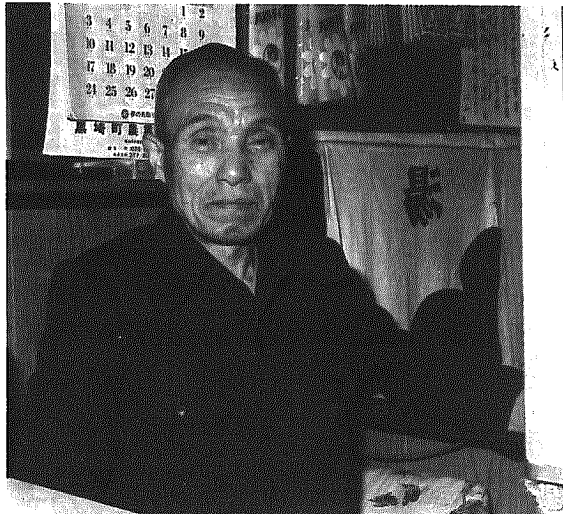
らな

らない商売だ。一種の社会奉仕みたいなもんだね。やめるのは簡単だが、議員を三期させてもらった

ことのご恩返しということもあるし、風呂がこわれたりしたとき困らないようにということもあるし。

今ではもらい湯ということもないからね。入る人がいる限りは続けたいと話っている」

脱衣場にこんな看板がかかっていた。田村隆一さんの詩である。「銭湯すたれば、人情すたる。集団生活のルールとマナーをおしえよ。自宅にふるありといえど、そのポリぶろは親子のしゃべり合う場にあらざ、ただ体を洗うだけ。タオルのしぼり方、体を洗う順序など、基本的ルールはだれが教えてくれるのか。われは、わがルーツをもとめて銭湯へ。」



上/番台に立つ白井さん。下右/「花乃湯」。料金は大人（中学生以上）250円、小学生100円、幼稚園児以下50円。毎週木曜日が休み。1日の利用客は50人くらいという。下左/男湯のようす。

白井弘さん
新田町 六十六歳

ほんの一冊

理科系の文学誌
(工作舎)
荒俣 宏



著者は最近映画にもなった「帝都物語」

でかなり一般にも広く知られるようになりましたが、もともとは海外の怪奇小説、幻想小説、SFなどの紹介者・翻訳者として以前から活躍していた人です。

この本では、SFを手がかりに、多くの興味深いエピソードをまじえて、言語学、進化論、現代物理学、さらに二十世紀の(影の)思想史までが扱われます。と言ってもその取り上げ方がちょっとまともではありません。ですから、あまりマジメにかまえず、著者の話芸にのせられて驚異に満ちた世界を垣間見て楽しむばよいのでしょうか。ついでにこの本の中で取り上げられた(ダシにされた)SFもぜひ読んでみてほしいと思います。(この本は町立図書館にあります)

〈人の動き〉		前年	
3月末現在(前月比)		同月比	
人	22,882 (+45)	[+297]	
男	11,256 (+12)	[+150]	
女	11,626 (+33)	[+147]	
世帯	6,021 (+19)	[+138]	
3月1日～末日	入 250	転出 212	
出生	18	死亡 14	
婚姻	14	死亡 12	



広報の編集にご協力を

- ◆カットやイラストの描ける人
- ◆四コママンガの描ける人
- ◆インタビューやレポーターをしたい人
- ◆本を紹介してくれる人
- ◆簡単な英訳ができる人
- ◆編集に興味を持っている人

どうぞ、お気軽にお申し込みください。また、お知り合いを紹介していただき。上手下手は問いません。薄謝ですがお礼致します。昨年、申し込まれたかたは順次依頼させていただきます。また、楽しい話題や頑張っている人もご紹介ください。

▼連絡先・役場企画開発課広報係
☎377・3101(内線46・52)

▼新聞記事等ですでにご存じのかたも多いと思いますが、「広報くろさき」が全国広報コンクールで特選・自治大臣賞を受賞しました。これも町民の皆様のご協力のおかげです。これからも町民の皆様へ親しまれる広報づくりを進めていきたいと思っております。今後ともご協力をお願いします。また、町に關係したさまざまな情報の提供やご批判などもお待ちしています。

▼机の上で広報を作ろうなんていうのは論外だけれど、はやり町へ出てみるとたくさんの人たちと出会って、いろんな声、考えを知らなくては、と思っております。カメラがいつでもお邪魔するかもしれません。そのときは、よろしくお願ひします。

●来月号の表紙

来月号は「生涯教育・生涯学習」の特集を組む予定です。人生七十年、あなたは何をなすことをして一生を過ごすのか、どんなことをやってみたいのか。これからやりたいこと、これからも続けてやってみよう、と考える「ライフワーク」ことなどについてお聞かせください。皆さんのご連絡を、お待ちしております。